

2014年7月24日
株式会社日立製作所

日立的サーバ論理分割機構 Virtage を「SAP Business Suite」が複数動作可能な本稼働環境を実現できる仮想化技術として、SAP 社が認定

日立は、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」に搭載されている日立独自のサーバ論理分割機構 Virtage(バタージュ)が、SAP AG(以下、SAP 社)の ERP パッケージである「SAP Business Suite」を複数かつ本稼働環境として動作させることができる仮想化技術として、SAP 社よりグローバルに認定を取得しました。

本認定に基づき、Virtage を活用したマルチテナント*1 環境に構築した「SAP Business Suite」による複数の本稼働システムを、日立・SAP 社の正式サポートのもと、海外拠点も含めて利用可能になりました。

*1 マルチテナント:1つのシステム環境(1台のサーバ)を、複数企業のシステムやアプリケーションで共同利用する環境のこと。

Virtage は、サーバを論理的に分割し独立性の高いサーバ区画(LPAR*2)単位でのシステム構築を可能とするハードウェアベースの仮想化技術で、物理サーバと同等の信頼性や処理性能を実現しているため、企業の基幹システムなどで多く利用されています。

*2 LPAR(Logical PARTitioning/Logical PARTition):ハードウェア(サーバなど)がもつリソース(プロセッサ、メモリなど)を論理的に複数の区画に分割して割り当てる方式(Logical PARTitioning)、または、その割り当てられた区画(Logical PARTition)。

今回、SAP 社からの認定により、日立・SAP 社の正式サポートのもと、Virtage を活用したマルチテナント環境に、「SAP Business Suite」システムを構築し、利用することが可能となりました。また、SAP 社の種々のアプリケーションから各 LPAR の性能監視ができるため、システム集約を容易に行うことができます。

■今回認定を取得した構成

SAP Host Agent: 7.20 patch level 186 以降

Virtage ファームウェア:

BS500 用:Rev. 01-90 以降

BS2000 標準サーバブレード用:Rev.59-71 以降

BS2000 高性能サーバブレード用:Rev.79-71 以降

その他詳細はSAP Note 2025249をご確認ください。(閲覧にはSAP社アカウントの登録が必要です。)

■日立サーバ論理分割機構 Virtage について

Virtageは、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」に搭載されている日立独自のハードウェア論理分割機構です。日立がメインフレーム開発で培ってきた技術を生かして実現しています。オーバー

ヘッドを低減し物理サーバと同等の信頼性を保つことができるため、大規模な基幹系システムにも利用できます。詳細は、<http://www.hitachi.co.jp/virtage/>をご覧ください。

■日立における SAP ソリューションの取り組み

日立と SAP ジャパンは、1994 年に日本国内における「サービスパートナーシップ」契約を締結して以来、協業範囲をサービスからプラットフォームまで拡大してきました。さらに、協業をグローバルに拡大し、SAP 社と 2008 年に「SAP グローバルサービスパートナー」契約、2011 年に「SAP グローバルテクノロジーパートナー」契約、2013 年には日立データシステムズ社と SAP 社間で SAP HANA®に関するグローバル OEM(Original Equipment Manufacturer)契約を締結し、グローバル顧客に対する共同での販売・マーケティング活動にも取り組んでいます。

詳細は、<http://www.hitachi.co.jp/sap/>をご覧ください。

■他社商標注記

- ・SAP、SAP ロゴ、HANA、記載されているすべての SAP 製品およびサービス名は SAP 社のドイツおよびその他世界各国における登録商標または商標です。
- ・その他、記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社日立製作所 情報・通信システム社 IT プラットフォーム事業本部
<http://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>

以上